

令和6年第4回定例会 保健福祉医療委員会資料

【諸般の報告】

- | | | | |
|---|---------------------------------|-------|---|
| 1 | 地域医療連携推進懇談会の開催について（中央病院） | | 2 |
| 2 | 笠間市と連携したひきこもり支援について（こころの医療センター） | | 3 |
| 3 | 第6回CCSの集いの開催について（こども病院） | | 4 |

【議案関係】

- | | | | |
|---------|-------------------------|-------|---|
| 第176号議案 | 令和6年度茨城県病院事業会計補正予算（第1号） | | 5 |
|---------|-------------------------|-------|---|

令和6年12月10日
病 院 局

1 地域医療連携推進懇談会の開催について（中央病院）

中央病院では、地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携を推進するため、地域医療連携推進懇談会を定期的を開催している。

今年度は、水戸地域の医療機関との連携を強化するため、水戸市内で初めて、さらに院外では9年ぶりに開催し、中央病院診療科部長4名による講演会や参加者との意見交換会を行った。

地域の医療機関等から170名、院内から57名の計227名が参加し、「患者を紹介するために参考になった」、「今後も様々な診療科の講演を期待している」などの感想をいただいた。今後も地域の医療機関との機能分化を図りながら、連携を強化していく。

○ 地域医療連携推進懇談会の概要

名 称	令和6年度 地域医療連携推進懇談会
日 時	令和6年11月26日(火)19:00～21:00
参加者	227名(うち院外(地域の医療機関等)170名)
場 所	水戸プラザホテル
講演会 テーマ	①当院の脳神経外科の特色 【講演者：木村脳神経外科部長】 ②痛くない、直ぐ帰れる、そして長持ちの最新人工関節手術 【講演者：林整形外科部長】 ③CKD(慢性腎臓病)における“連携”の意義 【講演者：甲斐腎臓内科部長】 ④茨城県心不全地域連携について 【講演者：武安循環器内科部長】



講演会の様子



意見交換会の様子

○ 連携体制構築に関する実績

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6 (10月末)
病院訪問件数	8件	28件	45件	81件	47件

○ 地域医療連携に関する実績

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6 (10月末)
紹介率	65.9%	62.6%	64.8%	73.5%	80.0%
紹介患者数	8,281人	8,876人	9,615人	9,540人	6,024人
逆紹介率	97.0%	90.7%	94.4%	100.5%	102.2%
逆紹介患者数	12,196人	12,853人	14,014人	13,054人	7,700人

2 笠間市と連携したひきこもり支援について（こころの医療センター）

こころの医療センターでは、令和2年度から、笠間市と連携して、ひきこもりの状態にある方への訪問により精神疾患を持っていないか等のスクリーニングを行い、通院や就労支援の事業所の利用などの社会復帰に繋げているところ。

令和6年度の訪問件数は、9月末時点で37件となっており、事業開始時から年々増加を続けている。

引き続き、笠間市と連携し、ひきこもり状態にある方への支援に取り組んでいく。

（1）支援に関する流れ

ア 対象者の選定及び承諾取得

笠間市が実態調査等から対象者を選定し、本人又はその家族等から支援介入に関する承諾を取得する。

イ 支援の決定

選定された対象者は、支援が必要な者かどうか、こころの医療センターと笠間市が協議を行い、支援の実施を決定する。

ウ 訪問及びスクリーニング

こころの医療センターの医師、精神保健福祉士、看護師、笠間市の保健師、対象者の家族等で構成される専門職チームが、対象者を訪問しスクリーニングを行う。

エ 支援計画の策定

精神疾患の有無やひきこもりの状況などのスクリーニング結果を基に、専門職チームが、対象者の社会復帰の方法を計画（支援計画）し、本人や家族に提案する。

オ 支援の実行

支援計画に基づき、継続訪問を実施するとともに、精神疾患を有する者は、こころの医療センターで治療を行うほか、福祉サービスが必要な者は、笠間市が関係機関へとつなげる。

- ・行政機関等（笠間市（社会福祉課、健康医療政策課、地域包括支援センター、基幹相談支援センター）、笠間市社会福祉協議会）
- ・障害福祉サービス事業所

（2）事業実績

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6 (9月末)
訪問件数 (対象者数)	1 (1)	3 (3)	8 (4)	39 (4)	37 (4)

- ・このうち2名が就労支援の事業所に通所するなど社会復帰を果たしている。

3 第6回CCSの集いの開催について（こども病院）

小児がんの患者は、約80%以上が治癒を見込めるようになる一方、小児がん経験者（CCS（※））は、原疾患や受けてきた治療の内容によって、身体的及び心理社会的な晩期合併症を発症しうるため、これらを早期に発見して包括的に対応する長期フォローアップが重要である。

このため、こども病院では平成29年度よりCCSと保護者を対象とした勉強会「CCSの集い」を開催し、CCSが抱えている様々な問題にアドバイスを行い、健康な状態を維持しながら、社会で活躍できるよう支援している。

今後も勉強会の開催など、CCSが健康に社会生活を送れるよう、引き続き支援していく。

※ 小児がん経験者(Childhood Cancer Survivor: CCS)

(1) CCSの集いの概要

名 称	第6回CCSの集い
日 時	令和6年10月5日（土）13:00～16:30
参加者	CCS 5名、保護者 6名
場 所	こども病院 大会議室
内 容	<p>過去の自分の疾患・治療の理解を深める取組みとして、晩期合併症についての講演会や、リラクゼーション、CCSやその家族同士の交流会、当院医師及び看護師による個別相談を実施した。</p> <p>◆講演会 ①「晩期合併症について」講師：こども病院 医師 ②「心の健康管理について」講師：こども病院 作業療法士</p> <p>◆リラクゼーション 講師：こども病院 理学療法士</p> <p>◆参加者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の病気について、改めて知れただけではなく、かつて仲良くしていた方と再開できて嬉しかった。 ・外来治療に移ってからの方が孤独であったが、会場に出向いて多様な人と会うことそのものが貴重で嬉しい時間であった。

(2) その他の取組み

CCSが過去の自分の疾患・治療の理解を深め、今後の健康管理に役立てられるよう、日頃からメールでの問合せや健康相談外来により支援を行っている。

○ CCS健康相談外来相談件数

R5	R6(9月末)
2件	2件



CCSの集いの様子

第 176 号議案 令和 6 年度茨城県病院事業会計補正予算（第 1 号）

1 補正予算案の概要

人事委員会勧告を踏まえた職員の給与に関する条例等の改正に伴い、職員の給与等の改正に必要な予算を計上するもの。

2 補正予算案の内容

(1) 給料及び期末・勤勉手当の支給率の改定

- ・ 給料の改定率：+2.62%
- ・ 期末・勤勉手当の年間支給率：4.5 月分 → 4.6 月分

(2) その他

給与改定に伴う入院・外来収益の診療報酬に係る加算額の計上

3 収益的収入及び支出の補正額

(単位：千円)

科目		補正前の額	補正額	計
事業収益	中央病院	21,599,586	108,839	21,708,425
	こころの医療センター	4,178,635	31,742	4,210,377
	計	25,778,221	140,581	25,918,802
事業費用	本庁	123,200	3,499	126,699
	中央病院	21,570,365	339,643	21,910,008
	こころの医療センター	4,132,713	99,512	4,232,225
	こども病院	1,317,281	30,906	1,348,187
	計	27,143,559	473,560	27,617,119